

vol.

108

2022

7/22 発行



いちのへ社協だより

ゆいっこ



CONTENTS

令和3年度決算報告	2	みどりの森こども園開園	8
令和4年度予算概要	3	できごとフラッシュ	9～10
地域包括ケアシステム検討委員会令和3年度のあゆみ	4～5	社協からのお知らせ	11
令和4年度事業計画	6～7	Topics	12

題号"ゆいっこ"は、古くは若者たちによる共同農作業という素朴な集団の呼称として使われていましたが、この互助精神が福祉の精神そのものと思い、社会福祉協議会広報の題名にしました。



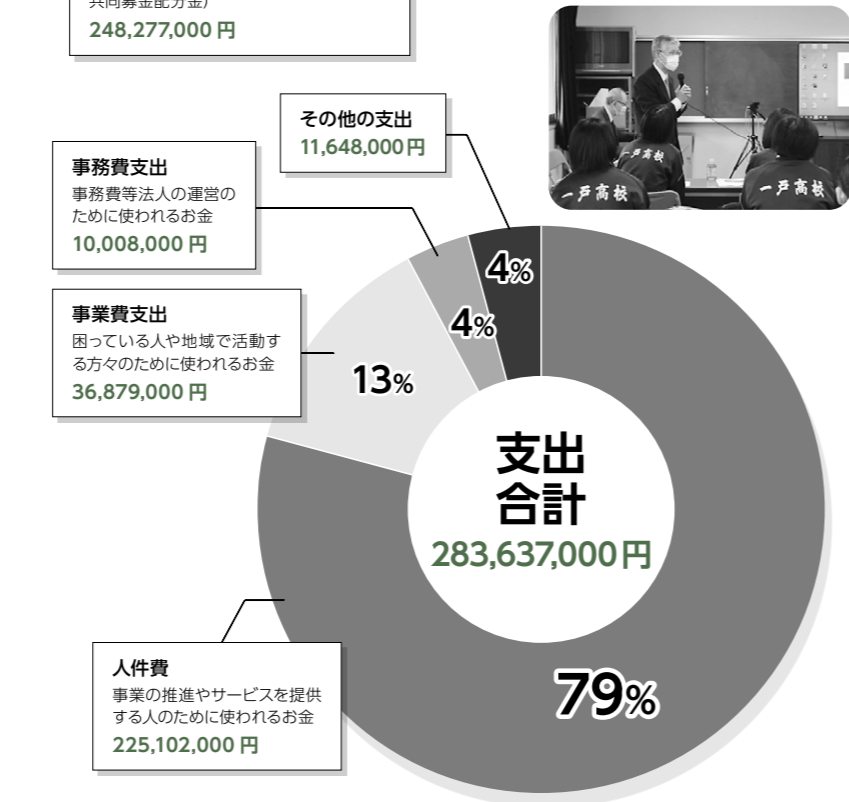
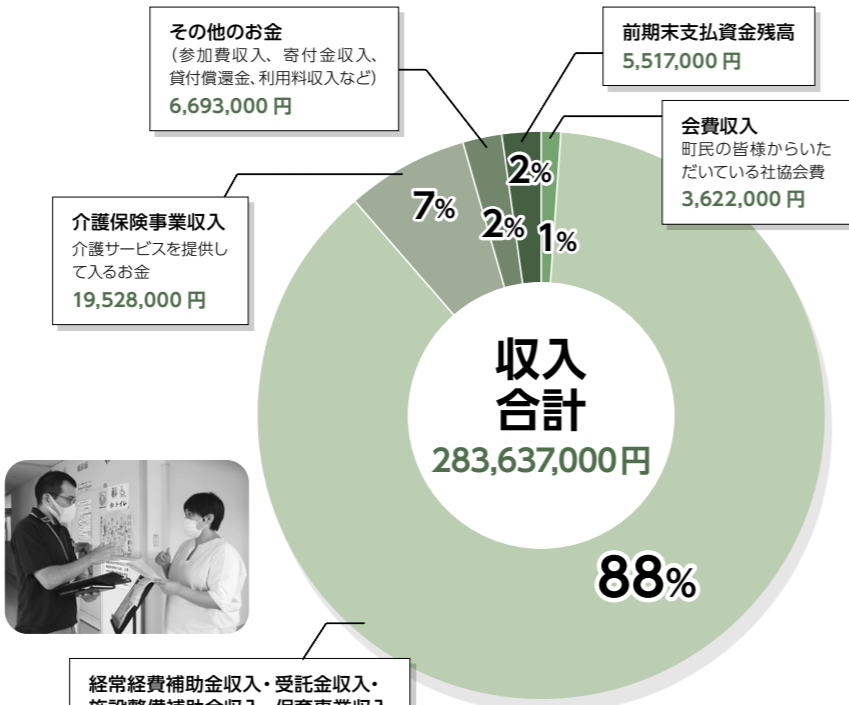
令和4年度

予算概要

一戸町社会福祉協議会は、今年度も引き続き地域包括ケアシステムの構築に向けた生活支援体制整備や認知症に関する総合支援、保育環境を安定的かつ持続的提供に向けた保育施設の受託を中心とした各事業を標記予算のとおり展開していきます。

資金収予算書(単位/円)

勘定科目	決算額
会費収入	3,622,000
寄付金収入	1,000
経常経費補助金収入	30,957,000
受託金収入	15,153,000
貸付事業収入	1,001,000
事業収入	4,101,000
介護保険事業収入	19,528,000
保育事業収入	202,167,000
受取利息配当金収入	3,000
その他の収入	0
事業活動収入計(1)	276,533,000
人件費支出	225,102,000
事業費支出	34,007,000
事務費支出	10,008,000
貸付事業支出	1,500,000
助成金支出	1,372,000
事業活動支出計(2)	271,989,000
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	4,544,000
施設設備等補助金収入	0
施設整備等収入計(4)	0
ファイナンス・リース債務の返済支出	756,000
施設整備等支出計(5)	756,000
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△756,000
勘定科目	決算額
事業区分間繰入金収入	1,000,000
拠点区分間繰入金収入	587,000
その他の活動収入計(7)	1,587,000
積立資産支出	1,000
事業区分間繰入金支出	1,000,000
拠点区分間繰入金支出	587,000
その他の活動による支出	2,897,000
その他の活動支出計(8)	4,485,000
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△2,898,000
予備費支出(10)	6,407,000
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	△5,517,000
前期末支払資金残高(12)	5,517,000
当期末支払資金残高(13)	0



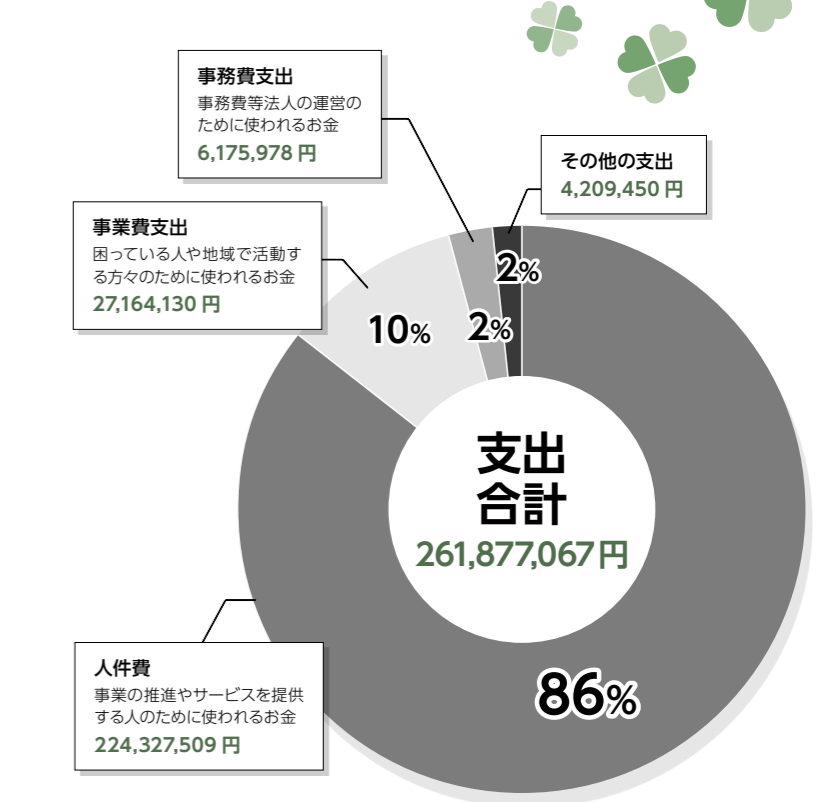
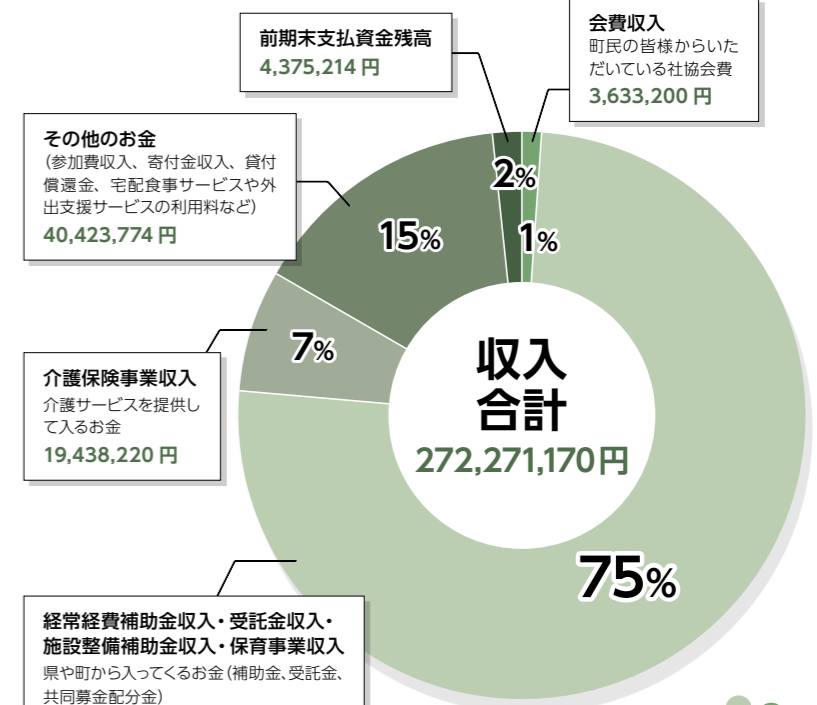
令和3年度

決算報告

一戸町社会福祉協議会は、令和3年度も地域の皆さまや各関係機関・団体などの協力のもと、事業を無事に行うことができました。令和3年度決算について次の通りご報告させていただきます。

資金収支計算書(単位/円)

勘定科目	決算額
会費収入	3,633,200
寄付金収入	400
経常経費補助金収入	25,703,208
受託金収入	9,685,574
貸付事業収入	202,000
事業収入	1,908,171
介護保険事業収入	19,438,220
保育事業収入	169,011,980
受取利息配当金収入	463
その他の収入	12,162,588
事業活動収入計(1)	241,745,804
人件費支出	224,327,509
事業費支出	25,761,230
事務費支出	6,175,978
貸付事業支出	216,000
助成金支出	1,186,900
事業活動支出計(2)	257,667,617
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	△15,921,813
施設設備等補助金収入	0
施設整備等収入計(4)	0
固定資産取得支出	108,900
ファイナンス・リース債務の返済支出	441,000
施設整備等支出計(5)	549,900
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△549,900
勘定科目	決算額
事業区分間繰入金収入	1,000,800
拠点区分間繰入金収入	256,496
その他の活動による収入	24,892,856
その他の活動収入計(7)	26,150,152
積立資産支出	197
事業区分間繰入金支出	1,000,800
拠点区分間繰入金支出	256,496
その他の活動による支出	2,402,057
その他の活動支出計(8)	3,659,550
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	22,490,602
当期資金収支差額合計(10)=(3)+(6)+(9)	6,018,889
前期末支払資金残高(11)	4,375,214
当期末支払資金残高(12)	10,394,103





一戸町の人口11693人（令和3年7月現在）に対して高齢者は5003人、全体の43.5%を占め、超高齢化社会を突き進む我が町のこれからの暮らしは、「移動手段がない」「買い物する店がない」「頼れる家族がない」等課題ばかり目に付くようです。

そんな中、一戸町地域包括ケアシステム検討委員会は、平成26年の設立以降、住民の様々な不安に寄り添い、誰もが自分らしく暮らし続けられる地域共生社会の実現を目指して取り組んできました。

令和3年度は3つの部会を新設。「この町を良くしたい!」と強く願う熱い委員たちの実践」と「多職種連携」の取り組みを紹介します。

見守り部会

高齢者世帯の増加に伴い住民が感じる不安は、自分が一人のことがあったら誰がどのように助けてくれるのか。その不安が少しでも軽減されるよう日頃から「声をかけ合うこと」と、万が一に備えて連携の仕方を学ぶための「認知症見守り声かけ訓練」に見守り部会は取り組みました。

訓練を実施することで、大切な人が行方不明になったことを想定し、関係機関との連携の仕



“声をかける”ことに勇気があるということ、訓練を通して気が付きました。



警察や消防等緊急時の関係機関との連携の仕方を学びました。

一戸町 地域包括 ケアシステム 検討委員会

令和3年度 のあゆみ

みんなで手をとって、自分らしく暮らすために

医療・福祉連携部会

いくらサービスや制度が整っていても、「どんなサービスがあるか知らない」「そのサービスの使い方が分からない」等必要な情報が行き届いていなければ意味がありません。医療・福祉連携部会では、「伝えること」の工夫に取り組みしました。



改訂した一戸町認知症ガイドブック。読む人が自分自身のこれからについて考え、記入できるシートを追加しました。



「演劇で知る認知症ガイドブック」を開催しました。



みんなで集い、地域について話し合うこと自体に大きな意味があります。



たくさんの情報が書き込まれたマップ。「見える化」することで、普段気が付かなかったことに気づかされました。

集いの場部会

「人が減って地域に元気がない」「地域を引っ張る人がいない」という声をよく耳にするようになりました。集いの場部会では、自治会機能を維持し元気な地域を作るためには、「地域を知る」と「必要と考える住民の支え合いマップの作成に取り組みました。ただ地図に印をつけるだけで

なく、そこに住む人一人ひとりのつながり合いや普段の生活の様子まで地図に書き込む「住民支え合いマップ」という手法を用いることで、元々あった住民相互の支え合い、または関係性が希薄であったことへの気づきになりました。

地域を知る取り組みが新しい支え合いの創出や地域づくりに結び付くよう、今後も取り組んでいきます。

一戸町社会福祉協議会では、住民一人ひとりの「福祉の心を育てる」「みんなの手で作る住みよいまちづくり」の実現に取り組むため、令和4年度の重点項目を以下の通り定めます。

重点事業

- 1 法人運営の基盤強化
- 2 助け合い支えあう地域づくりの推進
- 3 住民一人ひとりに寄り添う相談支援の充実
- 4 安心安全な在宅福祉サービスの提供
- 5 地域で見守る子育て環境の充実



地域巡回型認知症カフェ事業(小鳥谷駅)の様子



高齢者生きがい通所事業(来田保養センター)の様子



心豊かな子どもの成長を見守り支援する保育施設の受託運営

1 法人運営の基盤強化

評議員会、理事会を中心とした組織全体でのチェック体制の強化に努め、財務状況や事業内容の積極的な公表等と合わせて、事業運営の透明化を進めます。

また、自主財源確保に努め職員確保と資質向上を推進し、法人及び事業全体の体制整備に努めます。

2 助け合い支えあう地域づくりの推進

自主組織やボランティア団体、サロン活動団体等が行う地域福祉活動を支援するとともに地域福祉課題を把握し、ともに支えあうまちづくりを進めます。

子どもから高齢者まで幅広い福祉教育、ボランティア養成、ボランティア拠点の確保や整備を行います。

3 住民一人ひとりに寄り添う相談支援の充実

複合的かつ複雑な課題を抱える住民一人ひとりに寄り添うため、関係機関とのネットワーク構築を図り「断らない相談支援体制」を整えます。令和3年度から開始した法人後見事業については、事業運営の適正化を図るためチェック体制や専門職による支援体制を強化します。

4 安心安全な在宅サービスの提供

利用者一人ひとりや地域のニーズに合ったサービス提供を行うとともに、感染症や災害発生時も継続的にサービス提供できる工夫や体制を整備します。居宅支援介護事業では、タブレットの活用による業務の適正化・効率化に努め、サービスの質と職員の専門性を強化します。

5 地域で見守る子育て環境の充実

利用する乳幼児、児童について世帯状況を総合的に把握し、子ども子育て包括支援センターや学校教育課等関係機関と連携しながら、地域のニーズに合った子育てしやすい環境の整備に努めます。人材定着のため職場研修やカンファレンスの充実、システム導入による業務の適正かつ効率化を図ります。

組織図

法人運営事業

【法人運営事業】

【他団体事業】

民生児童委員協議会 日本赤十字社一戸町分区
共同募金委員会 一戸町社会福祉基金

地域福祉事業

【地域福祉事業】

ふれあい・いきいきサロン助成金事業
ゆいっこ活動助成金事業
シニアスポーツ大会
長寿祝い 他

【総合相談事業】

低利貸付事業
生活困窮者自立支援事業
日常生活自立支援事業 他

【在宅福祉サービス事業】

高齢者生きがい通所サービス
宅配食事サービス
通院時移送サービス

【地域包括ケアシステムの構築】

生活支援体制整備事業
認知症総合支援事業

児童福祉事業

いちのへじょうもの里こども園
奥中山みどりの森こども園
小鳥谷保育所
摺糠児童館

一戸学童クラブ
一戸南学童クラブ
小鳥谷学童クラブ
奥中山学童クラブ

公益事業

【居宅介護支援事業】

【法人後見事業】



評議員 14名

【役員】

会長 1名
副会長 2名
理事 7名
監事 2名
事務局長

できごとFLASH



クッキング体験 じょうもんの里こども園きりん組

じょうもんの里こども園のきりん組（年長児）17名は、6月9日、初めてのクッキング体験となる「ツナ餃子作り」を行いました。

どの子も朝からドキドキ、ワクワクで、エプロンや三角巾を身に着けていよいよ始まると「お母さんと一緒に作ったことある!」「ひよこさん（未満児）は小さい方が食べやすいかな?」など色々な話をしながら完成させました。

給食の皿にのった自分で作ったツナ餃子を嬉しそうに眺め、おかわりをして食べたきりん組の子どもたちでした。



1 真剣に餃子づくりをする子どもたち。
2 餃子完成!! 食べるの楽しみ!

集う喜び いきいきサービス再開



久しぶりの再会に会話が盛り上がりました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、長く休止していた高齢者生きがい通所事業（いきいきサービス）が5月16日（月）から再開されました。

参加者にはカラオケ中止やマスク着用等の感染対策は求められますが、久しぶりの再会に会話を楽しんでいる様子や「いいお湯だったよ」と嬉しそうに話す参加者の皆さんの笑顔が印象的でした。

いつまでもお元気で 長寿祝い



1 楽しそうな笑顔を向けてくださった宮本ミツ様。
2 102歳のお誕生日を迎えられた土川ミヨ様。

5月10日、宮本ミツ様が入所している施設で100歳のお誕生日を迎えられ、一戸町と社会福祉協議会から花束や記念品が贈呈されました。施設では他の利用者やご家族も参加したお祝い会が開かれ、素敵な一日を過ごされました。

また、土川ミヨ様も5月27日に入所している施設で102歳を迎えられ記念品等が贈呈されました。お二人ともいつまでもお元気で。

開園 奥中山みどりの森こども園

昭和41年に誕生して以降、主に奥中山地域の皆さんを中心に長く親しまれた「奥中山保育所」は今年4月、一戸町に2つ目となる「こども園」として新たに生まれ変わりました。

これまでの「保育」の良さを残しつつ、多様な「学び（経験）」を取り入れ、保護者の皆さんや地域の皆さんとともに子どもたちの成長を支える「奥中山みどりの森こども園」を作っていきたいと思えます。



自然とのふれあいや食育にも力を入れています。



給食の準備や掃除など、以上児クラスにおける「学び」や「経験」の機会をたくさん提供します。



こども園では0歳から受入を行っており、異年齢交流が盛んに行われています。



外でのびのびと遊んでいます。



0～5歳児までどのクラスでも友達や先生とのふれあいを大切にしています。

**大和田留吏子園長より
ご挨拶**

今年度は、0歳児から5歳児まで54人の子どもたちが毎日賑やかに通園しています。

ご存じの通り町内では一番涼しい場所にある当園ですが、子どもたちはこれからはじまる水遊びシーズに胸を高鳴らせています。

朝、野菜の皮むきなどのお手伝いを済ますと外に出て畑に水やりを始める年長さん。続けて年中さん、年少さんが外に飛び出し、どんこ遊びやお花のジュース作りを楽しみます。異年齢児のふれあいがあることで、年中さんが年長さんを真似て同じような遊びを見つけたり年齢を越えて一緒に遊ぶ様子も見られます。

先日は、奥中山高原駅で七夕の飾り付けを行いました。季節の行事や地域の皆さんとの交流事業をこれからも大切にしていきたいと思えます。

社会福祉協議会会費の納入にご協力をお願いします

当協議会は、地域住民同士が支え合いながら自分らしく活躍できる「地域共生社会」の実現を目指しています。事業の実施においては、町民の皆様からの会費、町からの補助金・委託料、共同募金助成金等を財源として活動しております。

よりよい福祉のまちづくりに向けた事業推進のために、会費の納入についてご理解とご協力をお願いいたします。

納入金額：一般会員世帯 800円／特別会員世帯 2,000円
納入方法：各地区の行政連絡員や町内会を通じて納入をお願いいたします。

問い合わせ先：一戸町社会福祉協議会(TEL 0195-33-3385)
社協会費の使途例

- 歩行が困難な方の通院をサポートする外出支援サービス
- 高齢や障がいにより調理が困難な方への宅配食事サービス
- 町内小中高生の福祉教育
- 町内の乳幼児へのチャイルドシート無料貸出

困りごと出張相談会を開催しています

「就労しても長く続かない」「生活費に困っている。家賃が払えない」「人とのコミュニケーションが苦手」など、暮らしの中の様々な悩みについて相談してみませんか？

一戸町にお住まいの方を対象に、出張相談会を開催します。

日時：令和4年9月30日(金)、12月23日(金)
令和5年3月3日(金)
いずれも午前10時00分～正午まで

会場：一戸町総合保健福祉センター

申込方法：問い合わせ先へ電話でお申し込みください(当日参加可能)

問い合わせ先：二戸市社会福祉協議会くらしの相談窓口
(TEL 0195-43-3588)

チャイルドシート・車いすを無料貸出中

新生児から満1歳までの乳児、または帰省等により一時的な利用が必要な幼児を対象としたチャイルドシートの無料貸与を行っております。また、外出やケガなど一時的に車いすが必要となった場合で車いすの貸与も行っています。町内在住であればどなたでも申請可能です。



申請対象者：一戸町内にお住まいの方

申請方法：問い合わせ先へ電話後、窓口にて申請

問い合わせ先：一戸町社会福祉協議会
(TEL 0195-33-3385)

家族介護者の集いを行っています

一戸町地域包括支援センターでは、介護をされている方を対象に巡回で家族介護者の集いを開催しています。日頃の介護からはなれてほっとした時間をもちませんか？リフレッシュ体操や介護に対する悩みや疑問の相談を行っています。

日時・場所：令和4年8月9日(火)岩館地区
9月9日(金)平糠地区
10月14日(金)宮田温泉
11月11日(金)ぶらっと・ほっと
12月9日(金)小鳥谷地区センター
令和5年1月13日(金)奥中山地区センター
2月10日(金)宇別地区

いずれも午前10時～11時30分まで
※会場が変更となる場合があります。また、感染拡大状況に応じ中止となる場合があります。

問い合わせ：一戸町地域包括支援センター
(TEL 0195-32-3700)

子ども食堂「ひなたぼっこ」プレオープン

子どもだって大人だって、みんなでワイワイが楽しい。「ひなたぼっこ」は、子どもがひとりでも安心して食事ができる食堂です。勿論大人も大歓迎。みんなでご飯を食べたり遊んだりできる地域の中の安心できる「居場所」に来てみませんか？

日時：令和4年8月9日(火)
午前10時～午後2時(食事提供は午前11時30分～)

場所：一戸町町民文化センター 2階大会議室

料金：子ども無料、大人300円

参加方法：昼食準備の都合上、右記QRコードまたは電話等にて事前申し込みをお願いします。

申し込み、問い合わせ先：
カシオペア子どもの居場所「おいでよ」事務局
(TEL 0195-23-6608[カシオペア障連])



令和5年度職員(保育士)・令和4年度臨時職員(放課後児童支援員)を募集しています

① 保育士 採用予定者数 2名
募集資格：専門学校、短期大学、大学のいずれかを卒業した者。(令和5年3月卒業見込みを含む。)保育士及び幼稚園教諭免許を有する者または受験資格を有する者。

給与：161,000円～(各加算有)
採用予定日：令和5年4月1日
募集期間：令和4年8月上旬

② 放課後児童支援員 1名(臨時職員)
給与：130,000円～(各加算あり)
採用予定日：令和4年8月1日～(要相談)

募集期間：随時
提出書類・お問い合わせ：
当会ホームページ又はお電話にてお問い合わせください。
(一戸町社会福祉協議会 TEL 0195-33-3385)

できごとFLASH

田植え体験 一戸学童クラブ



田植え体験を楽しむ児童の様子。

5月23日一戸学童クラブは、毎年恒例の「学童クラブ米」の田植えを行いました。

当日は曇り空で、水も少し冷たかったのですが、子どもたちは稲を持ち裸足で田んぼの中へ。水や泥の感触を楽しみながら作業していました。

秋の収穫を、今から楽しみにしています。

ほっと一息 家族介護者交流会開催



身体を動かしリラックスして過ごす交流会。

町地域包括支援センターは、6月10日、現在介護中の方や過去に介護の経験がある方などの心と体のリフレッシュを目的とした家族介護者の集いをまちなか交流館ぶらっと・ほっとで開催しました。

参加者は、軽いストレッチで少しずつ身体と緊張をほぐしました。また、福祉用具や介護サービスについての情報交換を含めた会話も楽しみました。今後の開催予定については11ページをご覧ください。

お年寄りから子どもまで 楽しく学ぶ認知症講座

認知症を正しく理解し、当事者やその家族を見守る認知症サポーターの養成を目的とした認知症講座は、4月28日(木)に一戸高校、5月17日(火)に来田保養センターで行われました。

当日は、一戸町認知症ガイドブックを活用しながら演劇を披露し、認知症の症状や認知症に関する町のサービスなどについて楽しく学びました。

受講者には、認知症サポーターの証である「オレンジリング」が配布され、「勉強になった」「家族と一緒に記入シートを書こうと思う」などの感想が聞かれました。



- 1 演劇を披露し会場は盛り上がりました。
- 2 認知症ガイドブックを片手に演劇をみて理解を深める参加者。

各種相談日程表

	法律相談	多重債務相談	くらしの相談窓口	ふれあい相談
開催日	8月9日(火) 8月23日(火)	8月16日(火)	月曜日～金曜日 (土日祝祭日・年末年始休み)	月曜日～金曜日 (土日祝祭日・年末年始休み)
	9月13日(火) 9月27日(火)	9月20日(火)		
	10月11日(火) 10月25日(火)	10月18日(火)		
時間	10:00～15:00	10:00～15:00	8:30～17:15	8:30～17:15
場所	二戸消費生活センター (二戸合同庁舎内) TEL 0195-23-5800※要予約		二戸市総合福祉センター TEL 0195-43-3588	一戸町社会福祉協議会 (一戸町総合保健福祉センター内) TEL 0195-33-3385

表紙の紹介

いきいきサービス再開時の一枚。コロナウイルス感染防止のためしばらく休止していましたが、再開を待ち望む声が多く、ようやく再開する運びとなりました。送迎バスの中でも利用者さんの世間話は尽きることなく、久しぶりの会話に花を咲かせていました。



災害義援金募集のお知らせ

社会福祉協議会では、被災された方々を支援するための義援金を次の通り受付しております。頂いた義援金は岩手県共同募金や日本赤十字社岩手県支部を通じて全額被災地の方々へ届けられます。皆さまのご協力をお願いいたします。

・ウクライナ人道危機救援金

(受付期間：令和4年9月30日まで)

その他、各種国外義援金、救援金についても受付しております。一戸町社会福祉協議会(TEL 0195-33-3385)までお問い合わせください。



読者プレゼント

本誌への感想や当協議会への意見など、アンケートに答えていただいた方の中から抽選で3名の方に一戸町の特産品(1,000円相当)をプレゼントします。

応募を希望される方は、①住所②氏名③年齢④電話番号⑤本誌への感想や当協議会に対する意見などを明記の上、はがきまたはメールにて編集係までお送りください。発表は、発送をもって替えさせていただきます。

応募方法

▶ はがき

〒028-5312 一戸町一戸字砂森93-2
一戸町社会福祉協議会「広報ゆいっこ編集係」

▶ メール

ichinohe-shakyo@themis.ocn.ne.jp

編集後記

皆さん初めまして。今年度から一戸町社会福祉協議会に勤めております高橋です。新しくゆいっこの担当になりましたのでよろしくお願ひします。春に北上市から一戸町に引っ越してきて、慣れない一人暮らしで毎日慌ただしいですが楽しく過ごしています。ちなみに一戸町に来て星の綺麗さと山の近さに驚きました。先日初めて流れ星を見たのですが、一戸では流れ星はそんなに珍しくない事のようにそれまたびっくりしました。皆さんも晴れた夜はぜひ空を見上げてみてください。

今年度も住民の皆さまに地域の福祉情報をお届けしたいと思います。2022年のゆいっこもどうぞよろしくお願ひします。(高橋)

社会福祉法人 一戸町社会福祉協議会

〒028-5312
一戸町一戸字砂森93-2
(一戸町総合保健福祉センター内)
TEL 0195-33-3385
FAX 0195-33-2737
ホームページ
<https://ichinohe-shakyo.jp/>

